

令和5年度第1回恵庭創生懇談会議事録（要旨）

日時	令和5年7月3日（月）16：00～17：30
場所	恵庭市役所 301・302会議室
出席者	小磯 修二（一般社団法人地域研究工房 代表理事） 矢崎 哲夫（サッポロビール株式会社 北海道工場 副工場長） 大泉 晃（恵庭商工会議所 青年部会長（大泉塗装 代表）） 高岡 哲子（学校法人 鶴岡学園 北海道文教大学 副学長 医療保健科学部看護学科教授） 二瓶 文彰（北洋銀行 恵庭中央支店長） 岡部 利夫（北海道銀行 恵庭支店長） 山崎 真理子（北海道新聞社 千歳支局長） 長太 裕一（連合北海道恵庭地区連合 会長） 佐藤 康介（社会保険労務士法人 シェルパ 代表） 業天 章裕（千歳公共職業安定所 所長） 矢野 敦子（北海道石狩振興局 地域創生部長） 伊藤 雅一（中央コンピューターサービス株式会社 地域デザイン事業部 執行役員兼部長）
議題	（1）恵庭市総合戦略及び恵庭創生懇談会について （2）第2期恵庭市総合戦略 数値目標・KPIについて （3）令和4年度地方創生推進交付金 交付実績及び効果検証について （4）令和5年度デジタル田園都市国家構想交付金 採択状況について （5）第3期恵庭市総合戦略の策定について

流れ	内容
開会	●企画振興部次長 開会のあいさつ
市長 あいさつ	●市長 第1回恵庭創生懇談会にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。また、委員をお引き受けいただきまして、ありがとうございます。 委員の皆さまには恵庭市政の様々な分野でご支援、ご協力をいただいていることに改めて感謝を申し上げます。この懇談会は地方創生という全国的な呼びかけの中で、平成27年から開催しております。本懇談会で様々な

<p>市長 あいさつ</p>	<p>ご意見をいただき、恵庭市の総合戦略を策定させていただいております。策定にあたっては、目標値K P Iを掲げながら計画を進めてきたところです。人口は平成27年から増加しており、また昨年、第39回全国都市緑化北海道フェアを開催させていただきまして34万人の皆様にご来場いただきました。</p> <p>国も地方創生からデジタル田園都市国家構想ということに変わりました、それに基づいた施策について、新たに第3期総合戦略を皆さまからご意見をいただきながら策定していきたいと思っております。内容については、デジタル田園都市国家構想、ゼロカーボン、都市計画マスタープラン、ガーデンデザインプロジェクト、ポストガーデンフェスタ、盤尻地区、千歳市ラピダス等について、議論になると思っております。</p> <p>新しい取り組みばかりでなく、例えばこれまでも妊娠から、子育てまでの一貫した政策について考えさせていただいております。この恵庭に子どもからお年寄りまで幸せに住んでいけるようなことも一つの課題として、ご議論いただければと思っております。</p> <p>総合計画に次ぐ総合戦略ということになるわけでありますので、よろしくご意見等賜りますよう心からお願いを申し上げます、私からのご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。</p>
<p>確認</p>	<p>●企画振興部次長 配布資料の確認及び本懇談会の目的説明</p>
<p>自己紹介</p>	<p>恵庭創生懇談会委員あいさつ 委員自己紹介 (事務局自己紹介)</p>
<p>座長・ 副座長 選任</p>	<p>●企画振興部次長 事務局案：座長 小磯委員、副座長 矢野委員として委員に諮る。 委員は全員一致で事務局案を了承、承認。</p>
<p>座長 あいさつ</p>	<p>●座長 改めましてよろしくお願いたします。この恵庭創生懇談会は、2015年に設置されてそれ以降、このような形でお手伝いさせていただいております。それ以前も総合計画等、色々な形で今の政策には微力ですが、お手伝いしてまいりました。また、この4月から北海道文教大学に設立された、地域創造研究センターのお手伝いをしておりますが、これは恵庭の皆さま方と意見交換し、色々な形で一緒に活動してきた一つの発展系であると、自分なりに受け止めております。</p> <p>今期は新しい総合戦略の策定という局面を迎えております。人口減少という厳しい想定の中に、企業の立地に伴う人口の流入、これまでにない新</p>

座長 あいさつ	しい経験の中で、そこに恵庭の持っているポテンシャル、可能性をどう引き出していくか議論することが本懇談会の役割だと思っております。その思いで務めさせていただきますので、色々な面でのご協力よろしくお願いいたします。
副座長 あいさつ	<p>●副座長</p> <p>改めましてよろしくお願いいたします。</p> <p>以前別の振興局において、総合戦略の策定に関するお手伝いをさせていただいたことがありましたが、改めてこの職になりました勉強しているところです。</p> <p>微力ではありますが、今回の総合戦略の策定にお手伝いできると思いますので、よろしくお願い致します。</p>
議題	<p>●企画課長</p> <p>議題</p> <p>「(1) 恵庭市総合戦略及び恵庭創生懇談会について (2) 第2期恵庭市総合戦略 数値目標・KPIについて (3) 令和4年度地方創生推進交付金 交付実績及び効果検証について (4) 令和5年度デジタル田園都市国家構想交付金 採択状況について (5) 第3期恵庭市総合戦略の策定について」 説明</p> <p>●座長</p> <p>ただいまご説明いただきました、特に交付金関係と最後に説明のあった総合戦略の策定について、今回第1回の開催ですので皆さま方の考え、今進めている施策についての資料の内容についてのご質問も含めて、ご発言をいただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
意見交換	<p>●A委員</p> <p>資料4の「窓口支援システム(書かない窓口)導入事業」は、どのような内容でしょうか。</p> <p>●企画課長</p> <p>窓口に来庁された市民の申請内容を申請書に書くのではなく、職員が口頭で聞き取りをし、職員が申請書を作成する、システムから自動で証明書を発行するといったものです。このことにより、手続きの時間も短縮され、来庁する市民にとっても、負担の軽減になるという内容になります。</p> <p>●市長</p> <p>現在市役所ではそれぞれの部署ごとの手続きで、その度に住所、名前、申請者の名前を記入し、手続きをすることになっています。それを、職員</p>

が口頭で聞き取りし申請者を確定して、そして次の手続きに繋いでいくということで書かずに、聞き取りをしながら手続きを進めるという内容です。もう少し進んでくると、家でスマホで手続きができるというところまで進めていきたいと考えております。

まずは市役所に来て書かなくても、申請ができるというところから始めようとしています。その先も、家でスマホで全部手続きができるということを目指しながら、やっていきたいと思います。

北見市は書かない窓口を導入していますが、その方式を習いながら導入を目指しています。

●B委員

資料2基本目標(2)の「住み替えフェア」について、コロナの影響もあったと思いますが、参加者が多いと感じました。こちらはどのような内容でしょうか。

●事務局

お話のあった通り令和2・3年度はコロナで開催ができませんでした。内容は「住み替えセミナー」ということで、所有者の方に不動産相続等のアドバイスをするというものになります。令和4年度は長寿大学で2回開催を行いました。市内の事業者の方に講師をお願いし、あわせて602名の参加をいただきました。

●市長

高齢者の方で戸建ての家の除雪が大変で高齢者向きの賃貸に移りたい、または相続等で家をどう処分・売却するか、そのようなことをお考えの方へ向け、相談のセミナーを開催しています。それを以前から開催していますが、大変好評をいただき、そういったことで住み替えが進んでいくと感じています。おかげさまで恵庭で住み替えをしたい、恵庭の中で移り住みたい、恵庭の中でサービス付きの高齢者住宅に行きたい、といった場合に家を不動産屋さん買い取っていただく、リニューアルして売却するということが進んでいくと感じています。

新しく土地を買って新築を建てる場合、今は3,500万くらいかかりますが、例えば2,000万ぐらいでリニューアルしたところに若い人たちが住むことができるということです。他のまちのように空き家になって誰も買い手がいないことをなるべく避けるために、こういったセミナーを開催しています。

●座長

これからの時代、空き家問題もあり、一方で新築の物件は資材が非常に高騰していることから、有効に家を回していくという政策は非常に大事な

ことだと思えます。

●C委員

関心を持つのは「市民健康づくり 歩くことを通したまちづくり事業」です。歩くことは、高齢者の方でも参加しやすいと思えます。

高齢者の方の役割の中に、後世に自分たちの歴史を伝えるというものがあります。高齢者の方は仕事がなくなったり、伴侶がいなくなったり、喪失体験をたくさんすることから、鬱になりやすいです。ですが、自分の役割として、自分たちの歴史を後世に繋ぐことが生きがいにもなると思うので、このようなイベント等を通して、高齢者の方の生きがい作り、役割を果たしてもらおうようなこともしていただければいいと思いました。

●座長

昔の北欧の福祉政策は、支障のない生活を保障することが重点でしたが、今はこれまで社会的に活動したその活動を次の世代に繋ぐ、その活動の場を与えることが本当の福祉政策ではないかという話に変わってきているようです。それはC委員の話のように、次の世代に恵庭の歴史や社会的な活動の経験を生かしたいということになり、まさにまちづくりという、地方創生の趣旨にも合うような取り組みだと感じました。

●D委員

恵庭の素晴らしいところは、資料2の数値目標KPIの純移動数が、進捗率122%ということで流入者が上回っているところだと思えます。私は住宅ローンに携わっていますが、土地の代金と建設費の高騰のため、ラピダスやボールパーク等非常に流入の意欲が高くても、先ほど市長がおっしゃったように、価格帯によって住宅の建築が難しいと感じています。

マーケットと人の循環というのは、先ほど市長がおっしゃったように賃貸物件の促進であったり、空き家対策であったり、私たちも窓口でその業務をやっていますので、金融機関も含め、市の皆さまと相続対策、空き家対策の部分も窓口いらっしゃった方にご提案できないか考えていきたいと思えます。

●E委員

不動産の話で、ラピダスの進出や札幌市内の地価高騰により、恵庭に住まいや賃貸不動産物件を持ちたいという話は、非常に多くお話をいただいています。一方で、人気のある地域のため、なかなか紹介できないという部分もあります。

その中で今の空き家対策については、私たちも果たせる役割は当然あると思えますので、例えばお亡くなりになられてそのままになると、空き家になってしまうケースがあるので、早い段階で私たちもお話をさせていた

だきたいと考えています。

加えて非常に難しい話だと思いますが、これから恵庭自体需要が高く住宅が増えてくる中で、例えば市街化調整区域や用地を住宅に転用するということは、将来的に可能性はあるのでしょうか。

●市長

実際に恵庭の地価が上がっているということもありまして、住宅需要がさらに拡大していきたくらうと考えています。様々なライフスタイルを持った人たちが入ってくるかもしれないので、かなりの広さを持った住宅供給ができる場所が必要になると思っています。そうすると、市街化区域の拡大ということにならざるを得ないのかなと考えていますが、恵庭市にそのことを決定する権限はありませんので、北海道や国の動きをみたいと思っています。一方で、市街化区域内についても考え合わせながら、住宅供給ができるような方策を今後考えていくべきと思います。

●座長

恵庭は非常に大事な状況の中で、すぐに成果が出るわけではありませんが、これまでにない新しい動きのため、従来の考えや制度で対応できるかどうかと思っています。

制度のあり方も含めて、基本的な議論をこの機会にしていこうということは非常に重要で、それに向かって前向きな議論を進めていこうという大事な機会だと思います。

市長がおっしゃった、色々な可能性を含めた議論を今のうちに準備しておくことが大事だと思っています。

●F委員

移住促進事業について外的要因はあるかと思いますが、従来から恵庭は移住してくる方が非常に多いとのことでした。そこで、移住される方は恵庭市に住みたいと言ってくる方が多いのか、移住フェアの他のブースで恵庭市の話を聞いて来る方が多いのか、恵庭に移住する決め手を教えてください。

最近東南アジア国籍の方が非常に増えていますが、外国人の方が何人恵庭に住んでらっしゃるのか、主な職業、恵庭に住むことになった経緯を教えてください。

●企画振興部長

移住促進事業について、移住フェアを開催したときに各市町村のブースを選ぶ形になっていますが、その中で恵庭市を選んでいただいて、相談を受ける形になっています。そして興味を持たれた方はオーダーメイドツアーで恵庭を訪れて、その方々に合わせたツアーで恵庭市の状況を見ていた

できます。オーダーメイドツアーは平成 28 年度から令和 3 年度までの実績で 59 組となりましたが、18 組 30.5%の方が、移住先として恵庭市を選んでいただいています。なお、移住者の追跡調査では平成 29 年度から令和 3 年度までに 46 世帯 120 人の転入者があり、それに伴って出生者が 5 人となっています。

外国人について、恵庭市に 600 人程住んでいます。アンケート調査を取ったところ、日本語が分からないことが一番困るとのことで、日本語教室を行っています。

●市長

移住フェアは首都圏、関西圏でも開催しています。北海道に移住したい方は、恵庭と千歳のブースに来ていただく方が多く、そうした方々はどちらかという、若いご家族が多いです。移住の理由について色々ありますが、子どもを育てる環境として首都圏よりも北海道がいいということ、アトピーや花粉症、そういったこともあるかもしれません。そういった方々は北海道の仕事、住むところ、物価等の疑問をお持ちなので移住フェアのときには、不動産の方々も同行し、仕事のパンフレットを作り、説明します。そしてそれに興味を持たれた方は、一度恵庭のまちを見てみたいということでオーダーメイドツアーの申し込みをして、実際に見ていただいた方の 3 割は転入されるという流れで移住が進んでいます。その他道内から来ている方も圧倒的に多いです。

恵庭市に住む外国人の方は工場の技能実習生が多く、国籍別ではベトナムが一番でネパール、フィリピンが多いです。

●G委員

第 3 期総合戦略を考えるうえで、第 2 期総合戦略がたたき台になると思います。第 2 期総合戦略 11 ページの⑩「外国人も暮らしやすく」について、恵庭の連合の会議でも話題に上がりますが、外国人の労働者の方が工場と自宅を往復するだけになり友達ができづらいと聞くので、日本語教室は結構だと思いますが、中でも横の繋がりができるような取り組みをしていただき、外国人の方も寂しくなく過ごせるようにしてもらえたらいいと思います。

第 2 期総合戦略 13 ページの⑩「教育環境の充実、学力向上」について、K P I が土曜授業の延べ日数となっていますが、現場の意識として土曜授業を増やしてもメリットがないのではないかと考えています。土曜日に少年団の大会等により休まれるお子さんも結構いらっしゃいます。ですので、土曜授業を目標にするのではなくふるさと教育の充実で、恵庭で学べることや学校に恵庭の方に何か授業をしていただくとか、そういうものを

目標数値にすれば、子どもたちも恵庭に将来的に交流を持って住めるような教育ができるのかなと思いました。

●市長

外国人の方も恵庭にせっかく勤めて暮らしているわけですから、恵庭に来てよかったと言ってもらいたいと思います。そのために外国人を雇っている企業の方、町内会の方、日本語を教えている方、農業の方々と協議会を作り、外国人の方のコミュニティ等について考えています。その協議会を通して、外国人の方と地域の方たちの理解や交流が深められればと思っています。

●H委員

資料4番「書かない窓口」について大変良い取り組みだと思いました。土業の仕事の中で、職務上請求で住民票等を代わりにとる機会がありますが、職務上請求書と一般の申請書両方必要な自治体と、職務上請求書のみでよい自治体がありますが、そのように恵庭市もしていただけるといいと思います。

シェアサイクルの事業について、恵庭駅で自転車が停まっているのを見かけ、これは何だろうと思っていました。恵庭の街中であまり目にしないという印象を受けていますが、札幌市だと観光の方でなく地元の方が活用している様子が目につきました。シェアサイクルの事業を知ってもらう意味でも、地元の方が使っているということを市民が見かけるといいことも、周知に繋がると思いました。

観光全般について、コロナが明けて外に出かけたいという気持ちが大きくなっているのではないかと思います。企業の中でもインフルエンサーを使って取り組みを周知する手法が広がっているようです。恵庭市でも直接できるのか分かりませんが、地域のインフルエンサーを活用したら面白いと思います。若い世代の人たちの訴求力に繋がると思っていますので、ぜひ検討していただけるといいと思います。

●座長

検討のほどよろしくお願いします。

●I委員

先日、恵庭市の人材確保協議会に参加させていただきました。その中で人材確保に関しても様々で、外から来て恵庭で仕事があるか、ラピダスの話からすると地元で働いている方が持っていかれるのではないかと、確保するのが大変になるのではないかと、今ある地元企業がそのような心配をされているようです。全部はまだ見えないところではありますが、今地元にある企業が通常通り人材を確保するところを、通常通り進めていくこ

とも非常に大事ということも考えています。

加えて外国人について、昨年の6月の入管庁の数で550人程来ているようで、技能実習が一番多く180人程、加えて特定技能というのが増えましたので、技能実習から流れた人も恵庭市内は増えています。技能実習の法律も変わるというところもあり、見えないところが多く地元の方々が大変な思いをされていると思っています。そのようなことを情報共有しながら企業、私たち、市役所、関係する皆さんと色々なところで進めたいと考えています。

観光について、私は実家が旭川でして先日実家の母がバスツアーでエスコフィールドに行ったようですが、見学後は旭川に帰ったようです。せっかく周辺まで道内のあちこちから来ているのであれば、短い時間で見学等できるものが、恵庭や近隣にあるので使ってもらえればと思いました。国の交付金は制約が厳しいため、その中で工夫されて色々なアイデアを出されていると思いますが、せっかく近くに人がたくさん来るようになりましたので、そういう方々がもう少し寄っていただければと思いますので、何かいいアイデアがたくさん出ればいいなと感じます。

●座長

大きな変化に向き合うことは、プラスもありますが極めて難しいことです。そういうところに向けた議論を、ぜひ総合戦略に繋げていただければと思います。

●J委員

私たちは恵庭市とDX推進連携協定を締結させていただきまして、すでに数回定例会議に参加しており、デジ田やDX等の内容について理解しているつもりです。

昨年からは北海道の自治体とデジ田のタイプⅢ等を一緒にお手伝いをしてきた経験とノウハウがありますので、こちらを恵庭市の検討に活かしていきたいと考えていますので、よろしく願いいたします。

●副座長

北海道庁のデジタル化が進んでおり、慣れてきますと時間短縮に寄与すると感じています。そういった中で、恵庭市も電子入札システムの導入や、プロモーション・PRにアプリ等を使う等、デジタル化を進めているというところですので、色々な課題もあるとは思いますが、デジタル化を進めていただければと思います。

●座長

今回前倒しで新しい第3期恵庭総合戦略の策定に向けて取り組まれるということですが、取り巻く環境として色々な変化があり人口減少とい

う大きなうねりに加えて、ある意味で人口が局地的には増えるということで、非常に難しいと思います。

一方で地方創生の基本理念というのは、人口減少時代というこの厳しい時代にどのような都市政策を展開していくか、これに尽きると思います。北海道も人口のピーク 570 万人から今では 510 万人を下回り、25 年以上人口が減少しています。人口が減少していく次の時代の行政サービスの転換の中での政策の展開、非常に厳しい議論に向き合っていくという、この部分が大事なことだと思います。

今回の改定の背景には、デジタル田園都市国家構想という新しい政策の枠組みが、従来の地方創生から名前が変わり進んでいますが、中身の原点は人口減少時代ということをおぼろげに忘れてはならないと思います。大都市と地方の格差をデジタル技術を使い我々としてどう変革させていくのか、改めて人口減少時代に向き合う地方創生というものを考えていく機会に、新しい総合戦略の策定に向けてぜひ繋げていただければと思います。

2016 年頃の総合戦略の策定で、総合計画との違いについて議論がありました。恵庭に総合計画という基本の政策指針があり、それに対して地方創生の総合戦略は位置づけて進めてきたという、その図式を変えることなく恵庭のバランスのとれた政策展開を進めてほしいと思います。今、計画がたくさんあり、乱立している中で往々にして見えなくなってくるかもしれませんが、そこは意識し議論検討を進めていただきたいと思います。

デジタルとともに今、国を取り巻く大きな政策の潮流というのがグリーンです。脱炭素は民間企業も含めて世界的な潮流の中で、その中でデジタルの活用、エネルギーの消費を見ると無駄が多くなっています。それをデジタル技術で見える化することによって、より効率的な社会にしていくという、この取り組みもすごく大事だと思いますので、ぜひ恵庭にも次の総合戦略に向けて取り組みを進めていただきたいと思います。

●市長

これから第 3 期総合戦略に向けて、皆さま方からご意見をいただきながら作り上げていく、そのスタートであると感じています。

今それぞれお話を聞かせていただいて、デジタル、ゼロカーボン、エネルギー、そういった課題が私たちのまちづくりに来ていますが、全体的なまちづくりを考えたときに、そこで暮らす人が幸せなのか、そして良いことを続けていけるようにと思っています。

先ほどお話がありましたが、お年寄りの方が生きがいを持って暮らすことができないことに対し、社会、地域として何ができるのか、そのようなことも考えながらまちづくりを進めていきたいと思っています。

	どうぞ皆さん方貴重なご意見を賜りますよう、小磯座長のもとでよろしくお願いいたします。
閉会	●企画振興部次長 閉会のあいさつ